

ふたみ総合支援センターの相談対応状況等について
～中間報告～

1 相談対応状況

在宅介護等に関する各種の相談に対し、電話相談、面接相談等により、総合的に応じるとともに、要援護高齢者等の家族等からの相談や関係機関からの連絡に対しては、訪問等により在宅介護の方法等についての指導・助言を行ってきた。

(1) 相談件数

	相談件数		訪問件数（再掲）	
	延件数	実件数	延件数	実件数
4月	140	68	24	22
5月	108	73	20	19
6月	194	92	40	31
7月	139	56	33	24
8月	132	64	29	20
9月	146	62	39	29
上半期	859	415	185	145

(2) 相談内容

(単位:件)

	保健福祉	医療	介護予防	介護保険	生活状況	権利擁護	高齢者虐待	認知症	インフォ マル	その他	計
4月	37	15	1	54	101	1	0	6	0	0	215
5月	24	5	10	52	63	5	0	0	1	0	160
6月	45	6	1	103	110	6	1	2	1	6	281
7月	37	7	1	71	88	11	0	4	0	4	223
8月	15	3	0	71	104	3	1	4	0	6	207
9月	30	2	0	74	103	5	3	1	0	6	224
上半期	188	38	13	425	569	31	5	17	2	22	1,310

備考)

「保健福祉」とは、保健福祉サービスの相談を表す。

「医療」とは、医療機関の受診等の相談を表す。

「介護保険」とは、介護保険の申請や介護保険サービス等の相談を表す。

「生活状況」とは、ADLの低下による日常生活の困りごと等の相談を表す。

- 主な相談内容としては生活状況が計 569 件で最も多く、次いで介護保険の相談が計 425 件、保健福祉に関する相談が計 188 件、医療に関する相談が計 38 件となっている。
- 子育てに関する相談としては、明石市立あおぞら園への入園の相談があった。
- 障害に関する相談としては、脳出血後の後遺症で障害者支援施設にてリハビリ訓練を受

けている 50 代の男性の訓練後の受け入れ先についての家族からの相談や、発達障害のある 50 代の男性の就労支援についての家族からの相談、高齢者と何らかの障害を抱える 40 代の娘 2 人からなる世帯の複合多問題へのケース対応などがあつた。

(3) 相談経路

(単位：件)

	本人家族	近隣友人	民生委員	地域包括	医療機関	介護機関	障害施設	警察	行政	その他	計
4月	16	0	5	18	5	3	0	0	10	11	68
5月	16	0	6	0	4	1	0	0	5	5	37
6月	14	0	0	2	5	5	0	0	15	10	51
7月	10	0	2	1	1	5	0	0	4	1	24
8月	11	0	0	1	4	2	0	0	6	4	28
9月	9	0	2	1	5	4	0	0	4	0	25
上半期	76	0	15	23	24	20	0	0	44	31	233

備考)

「地域包括」とは、地域包括支援センターを表す。

「介護機関」とは、居宅介護支援事業所、介護保険サービス事業所を表す。

「行政」とは、高年介護室、生活福祉課等を表す。

「その他」とは、社会福祉協議会、地域ボランティア等を表す。

- 主な相談経路としては本人・家族からの相談が計 76 件と最も多く、次いで行政からの相談が計 44 件、その他からの相談が計 31 件となっている。

2 介護予防教室の開催

高齢者ができる限り要介護状態にならずに健康で生き生きとした生活を送れるよう支援する観点から、介護予防教室を開催した。

日時	テーマ	開催場所	参加人数(人)
4月21日	介護予防体操	みなと記念ホール	18
7月8日	熱中症予防	高齢者ふれあいの里	25
7月20日	熱中症予防	二見北コミセン	12
7月21日	熱中症予防	みなと記念ホール	35
9月15日	認知症予防	みなと記念ホール	24
上半期		5回	114

すべての介護予防教室の参加者に対してアンケートを実施したところ、「とてもよかった」との評価が平均で 93.3%であり参加者の満足度は高い。

3 福祉なんでも相談（サテライト相談窓口）

センター立地の不便さ解消対策として、6月から二見北まちづくり協議会と連携し、二見北小学校区コミュニティ・センターにおいてサテライト相談窓口を毎月1回開設した。

（1）相談内容別件数

日時	相談内容(件)				計(件)
	高齢者	障害者	児童	地域活動	
6月22日	2	1	2	0	5
7月20日	1	0	0	1	2
8月24日	0	0	0	4	4
9月28日	0	0	0	1	1
上半期	3	1	2	6	12

（2）相談内容の事例

<高齢者>

- デイサービスの利用等介護保険制度に関する相談
- 現在入院されている高齢者の退院後の福祉サービスに関する相談

<障害者>

- 50代の男性が勤務中に意識不明となり、現在も失語症と四肢麻痺が残存。現在傷病手当を受給しているが、諸手続きを含めた今後の生活に関する相談

<児童>

- ネグレクトの疑いで子育て支援課に相談したケースに関する相談
- 小学生2人がいる父子家庭について、父親の就労と子どもの見守りに関する相談

<地域活動に関する相談>

- 地域で毎週開催しているサロンについて、社会福祉協議会によるサロン助成金の対象となるかの相談

4 地区在宅サービスゾーン協議会の運営

保健医療福祉に携わる関係者や地区組織等から構成される「地区在宅サービスゾーン協議会」の事務局を運営してきた。

日時	テーマ	開催場所	参加人数(人)
6月24日	消費者被害や防犯活動等の情報共有	高齢者ふれあいの里	24
9月23日	新聞記事等に基づく他市の取組事例等、様々な内容の意見交換	高齢者ふれあいの里	22
上半期		2回	46

5 地区診断

(1) 背景

二見北小学校区の地域特性として、高層マンションの開発が進展し子育て世代が増えている一方で高齢化も進んでいる。また、集合住宅では自治会が結成されていないか、結成されていたとしても特に賃貸マンションでは未加入者が多いなど、地域との関係性が希薄化しており、地域コミュニティの衰退が問題となっている。以上のことから「地域から孤立する集合住宅への支援」をテーマとし、集合住宅という構造によるコミュニティ活動の衰退が社会的孤立を招いているのではないかという仮説を立てて取り組むこととなった。

(2) A市住の実態

高齢者の入居者が多い一方、若い入居者は子育て世帯がほとんどであり、また自治会が結成されていないなど、二見北小学校区の地域特性を示すA市住をモデル住宅に選定し、平成28年8月1日から8月10日にかけて35世帯を対象に実態調査を実施した。

- 高齢者世帯は、情報を共有するなど他世帯と交流している世帯がある一方で、交流がなく孤立している世帯が存在していることや、子育て世帯は、父子・母子家庭がほとんどで、各々の生活で精いっぱいなのか、他世帯との交流がみられないこと、高齢者世帯と子育て世帯との世代間交流がない。
- 子育て世帯は学校を通じ地域の情報を入手できるが、高齢者世帯は自治会がないなどの理由から福祉情報が入手できないなど、地域の情報が入ってこない。
- 市住内での交流の場がないことから、一部の住民は近隣のサロンに参加しているが、そのサロンも来年3月には活動が終わる見込みのため、地域の交流の場がなくなることが予想される。